オーケストラの楽器 フルート

ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番は美しいメロディーで最も人気のあるピアノ協奏曲の一つです。第2楽章の始まりは、まるで薄暗い夜明けに漂う霧のよう。まず弦楽器が4小節の幻想の世界を奏するので、その霧の情景はそのまま4小節のピアノの3連符へとつながってゆきます。そのピアノの上に、突然フツと美しく澄み切ったフルートの旋律が浮かび上がります。ちょっと硬質で透明感の

あるフルートの音色に聴衆はハッとさせられ、会場の雰囲気は一気に変わります。またチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番の2楽章の冒頭も、弦楽器だけの4小節のピッチカートがあり、そのあとに、そのピッチカートに乗ってフルートがソロで美しい主題を奏でます。ラヴェルの《ボレロ》も同じ。4小節の弦楽器のピッチカート&スネアドラムのリズムの上に乗って、ソロ

のフルートがああ有名な旋律を奏でます。フルートという楽器は音がよく通り、大変ソリストティックな楽器ですから、音が出た瞬間に聴衆の耳は自然にフルートに集中するのだと思います。そして作曲家はそういう人間の感知力を良く知っていて、意識して最初の旋律にフルートを使うのでしよう。管楽器にはブレス（息継ぎ）がつきものです。演奏のうまい方法ほどブレスが上手。もちろん肺活量が多いなど、息が長く続くかどうかはありますが、ブレスのうまい人はどこで息継ぎをしているのか、が解らないほど音楽的なブレスをします。結局、どこでブレスをするかを決めるのは本人。息の長さやフレーズの様子だけでなく、音

の感じ方で決めるので、話は戻りますが、ラフマニノフやチャイコフスキーのコンチェルトを、初顔合わせのフルーティストと共演する時、第2楽章のブレスはどこかなと気になります。というか、ワクワク楽しみにブレスの箇所を聴いています。というのも、私はブレスに合わせてピアノを弾きたいのです。ブレスの場所が違えば音楽も変わる。リハーサルで一応の答えは出ますが、次の合わせでブレスを変えるフルーティストもいたりして、それも楽しみです。オーケストラ作品でのフルートのソロは、私が1台のピアノで弾くピアノ・ソロとは違います。単に自分が好きな演奏をするわけにはいかないのです。指揮者が望むテンポや解釈、そこに流れる音楽の中で、ソロを吹かなければなりません。決められた中で自分らしさを出すのですから、なかなか難しいことだと思えます。コンサートが終わると指揮者が管楽器奏者などを立たせて、その演奏を称えます。指揮者は素敵なソロをしてくれた奏者の方達に大感謝なのです。

KOYAMA MICHIE 東京藝大卒、同大学院修了。1982年チャイコフスキー国際コンクール第3位。85年ショパン国際ピアノコンクール第4位。「12年間・24回リサイタルシリーズ」(2006～17年)や「ベートーヴェン、そして…」(19～21年)は、その演奏と企画性で高い評価を受けた。2022年より、サントリーホールにおける新シリーズ企画「Concerto〈以心伝心〉」がスタート。オーケストラや指揮者からの信頼も厚い。ショパン、チャイコフスキーの2大コンクールなどの審査員も務める。17年度紫綬褒章を受章。仙台での「こどもの夢ひろば」のゼネラル・プロデューサーを務める。

小山実稚恵 135 ピアノと私

公演情報

小山実稚恵 ピアノ・リサイタル

6月21日(土) 14:00
横浜市市民文化会館 関内ホール
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第30番
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第31番
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第32番
問い合わせ: 関内ホールチケットカウンター
☎045-662-8411

東京交響楽団&サントリーホール
こども定期演奏会第94回

7月6日(日) 11:00 サントリーホール
下野竜也(指揮) 東京交響楽団
ドビュッシー: 「小組曲」より「小舟にて」「バレー」
モーツァルト: ピアノ協奏曲第23番第1楽章
問い合わせ: サントリーホールチケットセンター
☎0570-55-0017

楽の感じ方で決めるので、話は戻りますが、ラフマニノフやチャイコフスキーのコンチェルトを、初顔合わせのフルーティストと共演する時、第2楽章のブレスはどこかなと気になります。というか、ワクワク楽しみにブレスの箇所を聴いています。というのも、私はブレスに合わせてピアノを弾きたいのです。ブレスの場所が違えば音楽も変わる。リハーサルで一応の答えは出ますが、次の合わせでブレスを変えるフルーティストもいたりして、それも楽しみです。オーケストラ作品でのフルートのソロは、私が1台のピアノで弾くピアノ・ソロとは違います。単に自分が好きな演奏をするわけにはいかないのです。指揮者が望むテンポや解釈、そこに流れる音楽の中で、ソロを吹かなければなりません。決められた中で自分らしさを出すのですから、なかなか難しいことだと思えます。コンサートが終わると指揮者が管楽器奏者などを立たせて、その演奏を称えます。指揮者は素敵なソロをしてくれた奏者の方達に大感謝なのです。